

## 本賞



### 黒崎宇伸氏

魚津市で家業の銭湯「平成松の湯」を営む傍ら、写真家・プロデューサーとして活動する黒崎宇伸さんは、独創的な作品を通じて新川地域の魅力を国内外へ多角的に発信してきました。その取り組みは、地域の知名度向上と発展に極めて大きく貢献しています。

黒崎さんの功績は、世界最高峰の舞台で証明されています。英国王立グリニッジ天文台が主催する天体写真コンテスト「Astronomy Photographer of the Year」において、2020年から四度にわたり入選を果たしました。特に2025年度には、部門別で日本初となる準優勝に輝きました。入選作品はロンドンの博物館で展示・販売されたほか、BBCやナショナルジオグラフィックといった世界的な主要メディアでも紹介され、新川地域の美しい風景を世界中へ届けています。

さらに2025年の準優勝を受け、黒崎さんを題材としたドキュメンタリー映像が制作されました。これはアジア人初の快挙であり、ミラージュランドや魚津水族館、平成松の湯などでロケが行われました。この映像が世界へ配信されることで、新川地域の魅力はより一層広く知れ渡ることになります。

また、「二刀流」の活動を活かした地域プロデュースにも熱心です。魚津水族館での活性化プランの提案やイベントの企画など、多岐にわたる活動は地域に活気をもたらしています。世界的な評価を背景に、情熱を持って郷土の良さを伝え続ける黒崎さんの功績を称え、ここに本賞を贈ります。



# 特別賞



## 上澤俊喜選手

朝日町出身のプロバスケットボール選手である上澤俊喜さんは、卓越した競技能力と強いリーダーシップにより、全国の舞台で目覚ましい活躍を続けています。その姿は、地元朝日町をはじめとする新川地域の人々に大きな夢と希望を与えてています。

上澤さんは富山グラウジーズでプロキャリアをスタートさせた後、現在はBリーグの強豪、広島ドラゴンフライズでポイントガードとして活躍しています。移籍二年目の2023—24シーズンには、チームをBリーグ年間チャンピオンという栄冠に導く大きな原動力となりました。さらに、2024—25シーズンからはキャプテンに就任し、東アジアスーパー リーグ優勝を果たすなど、その実力は日本国内のみならずアジア全域へと広がっています。

トッププレイヤーとして多忙な日々を送る一方で、上澤さんは地元への貢献も忘れていません。朝日町で開催されるバスケットボールクリニックでは、ミニバスチームや部活動に励む子供たちに、競技の楽しさや基礎技術を直接指導しています。子供たち一人ひとりに寄り添い、真摯に教える姿勢は、多くの若者の憧れとなっています。

全国規模の活躍を見せながらも、故郷の子供たちの育成に熱心に取り組む上澤さんの歩みは、地域社会の活性化に大きく寄与するものです。その顕著な功績と、今後のさらなる飛躍を期待し、ここに特別賞を贈り、その栄誉を称えます。



# 地域社会賞

## 特定非営利活動法人 松桜閣保勝会

特定非営利活動法人松桜閣保勝会は、黒部市の指定文化財である「松桜閣」および「松桜閣の庭園」の保全と活用を目的に活動しています。昭和59年に「天真寺保勝会」として結成されて以来、40年にわたり、地域の貴重な文化遺産を次世代へ引き継ぐための活動を継続してきました。

初代富山県知事の私邸であった松桜閣は、地域の歴史を物語る重要な建築物です。保勝会は、その保護だけでなく、観光ボランティアの育成や園遊会の開催、見学者への解説案内などを通じて、文化財の魅力を広く発信し続けています。特に平成20年から3年間をかけて行われた松桜閣の復元工事への取り組みは、地域の文化を守る大きな足跡となりました。

復元後も、開館日を週一回から段階的に拡充し、現在は週六回の開館を実施しています。北陸新幹線の黒部宇奈月温泉駅に近いという立地を活かし、文化財を観光資源として活用することで、地域活性化にも大きく寄与しています。

会員による日々の清掃や庭園管理といった献身的なボランティア活動に支えられ、松桜閣は今も美しく保たれています。このように、伝統を単に守るだけでなく、地域づくりの核として活かし続ける多大な功績を称え、ここに地域社会賞を贈ります。



# 奨励賞



## 菅野純子さん

菅野純子さんは、洋画家として国内外で精力的に活動を続ける傍ら、地域の美術界の発展に長年尽力してきました。富山県洋画連盟の役員や魚津市美術協会の理事を務めるなど、作家としての高い知見を惜しみなく地域社会に還元しています。

菅野さんの功績の中でも特筆すべきは、40年にわたり運営している美術教室「パレットハウス」での活動です。子供から大人まで幅広い世代を対象に、一人ひとりの個性や感性を尊重した指導を続けてきました。地方社会において、このように豊かな心を育む学びの場を継続してきたことは、地域の芸術文化の底上げに大きく貢献しています。菅野さんの温かい指導に寄り添われ、絵画の奥深さに触れた教え子は数多く、後進の育成という面でも大きな足跡を残しています。

また、事務局長を務める「富山国際現代美術展（ART/X/TOYAMA）」の開催にも心血を注いできました。1997年からおよそ4年ごとに開催を続け、2026年には節目の10回目を迎えます。国内外の作家が集うこの美術展は、地域の芸術家に発表の場を提供するとともに、新川地域を世界と結ぶ貴重な国際交流のプラットフォームとなっています。

自身の創作に対する情熱を地域の教育と国際交流へ繋げ、無私の精神で芸術発展に尽くしてきた菅野さんの歩みは、奨励賞にふさわしいものです。その長年の献身的な活動を称え、ここに賞を贈ります。



# 奨励賞



## 川上弥生さん

昭和24年に創刊された俳誌「喜見城」は令和7年11月号で900号の発刊となります。

川上さんは、平成11年度に地域社会賞を受賞された長沼 紫紅氏と共に長年にわたり編集作業の幹部として携わり、平成30年より喜見城句会の代表を務めておられます。

また、富山県現代俳句協会の会長を歴任され、川上さんの提唱によりはじめられた「富山県現代俳句協会ジュニア俳句大会」は平成18年より15年間開催されました。

その間、選者として活躍されると共に、小学生児童への俳句教室を開かれるなど、小中学生の方々の俳句普及に大きく貢献されました。

現在も、読売俳壇のジュニア俳句の選者を務めておられます。

自宅では、書道教室も開催されており、またその自宅を「喜見城」編集作業場として提供されるなど、魚津市の文化活動に長年にわたり貢献されております。

本年、「喜見城」が900号発刊を向かえる年に、長年の労をねぎらうと共に今後の益々の活躍を期待して、ここに奨励賞を送り、その栄誉を称えます。



# 新人賞



笹島 浩裕さん  
笹島 浩聖さん

笹島浩裕さんと浩聖さんの兄弟は、それぞれが異なる科学分野において、中学生にして同世代で日本最高峰の栄冠を手にしました。地元の自然環境を深く見つめ、長年にわたり粘り強く調査・研究を積み重ねてきたその真摯な姿勢は、新川地域の次世代を担う若手研究者の模範として高く評価されます。

兄の浩裕さんは、入善町の天然記念物「杉沢の沢スギ」を拠点に長年調査を続けてきました。その中で見つけた光藻（ヒカリモ）に関する独創的な研究成果を、日本で最も歴史と伝統ある科学コンクール「日本学生科学賞」に出展し、特別賞である読売新聞賞を受賞しました。地元の貴重な自然資源に科学の光を当て、その価値を全国に発信した功績はとても大きなものです。

弟の浩聖さんは、小学一年生から8年間にわたりトンボの羽の構造に関する研究に情熱を注いできました。未来に残したい環境についての考えをまとめた「Green Blue Education Forum コンクール」において、全国114チームの頂点となる最優秀賞「環境大臣賞」を受賞しました。トンボの飛行メカニズムを解析し、将来的な航空技術への応用を見据えた独創的な視点は、未来の環境・科学に大きな希望を抱かせる内容です。

自らの好奇心を原動力に、世界に通じる知を新川の地から発信した兄弟の快挙は、地域の誇りです。二人のさらなる探究心と大きな成長を期待し、ここに新人賞を贈り、その栄誉を称えます。

## 第69回 日本学生科学賞 中央表彰式

主催：読売新聞社 共催：全日本科学教育振興委員会、科学技術振興機構  
後援：内閣府、文部科学省、環境省、特許庁 協賛：旭化成



日本学生科学賞 読売新聞賞受賞  
兄・笹島 浩裕さん



Green Blue Education Forum コンクール  
弟・笹島 浩聖さん

# 新人賞

魚津市立西部中学校3年生  
辻 口 哲 平さん

辻口哲平選手（魚津市立西部中学校3年）は、令和7年度第65回全国中学校水泳競技大会において、男子100m背泳ぎで準優勝に輝きました。同大会の男子200m背泳ぎでも5位入賞と、いずれも富山県中学校新記録で好成績を収めました。

水泳を始めたのは2013年の3歳の時。それから一般のスクールで力をつけて、育成コースに加入したのが小学校1年生の頃でした。初めてジュニアオリンピックの標準記録を突破したのが2020年小学校3年生の時。全国の舞台で戦うようになり、日々の練習にも力が入りました。多いときには1日7,000m泳ぐことも。昨年の全国中学校水泳競技大会で7位入賞を果たし、日本代表としてシンガポール遠征に選出された頃から世界に目を向けるようになりました。

憧れのバックストロークスイマー入江陵介選手を目指し、オリンピックに出場するという夢に向かってこれからも泳ぎ続けます。



全中準優勝 市長報告会



ジュニアオリンピック プールにて



とびUO!プール オープニングイベント

# 新人賞

## 富山県立桜井高等学校 アーチェリーコンペティション 女子

富山県立桜井高等学校女子アーチェリーコンペティションは、2025年8月に開催された全国高等学校総合体育大会（インターハイ）のアーチェリー競技女子団体において、三位入賞という輝かしい成績を収めました。この結果は、同競技における富山県勢として過去最高位となる歴史的な快挙です。

縦坂選手、流選手、細江選手、山口選手の4人のチームは準決勝で近畿大学附属高等学校（大阪）に惜しくも敗れましたが、その後の三位決定戦で福井県立鯖江高等学校（福井）との接戦を制し、見事に表彰台へと昇りました。日々の厳しい練習で培った集中力と、チーム一丸となって標的を狙う団結力が、全国の強豪がひしめく大舞台での快挙へつながりました。

新川地域にある学校が全国トップクラスの実力を証明したことは、地域のスポーツ振興に多大な活気をもたらしました。また、たゆまぬ努力が全国に通じることを身をもって示した部員たちの姿は、地域の多くの高校生やジュニア世代の選手たちにとって、大きな励みと誇りになるものです。

これまでの伝統を継承しながら、さらなる高みを目指して挑戦を続ける桜井高等学校女子アーチェリーコンペティションの素晴らしい功績を称え、さらなる飛躍を願って、ここに新人賞を贈ります。

